

いのちと健康を守る活動

助産所開設に向けて、関係機関の理解・協力を求める - PIHS ナプサさんの報告 -



← 9月初め、ジェネラルサントスで開かれた AIDS 感染予防に取り組む市保健局、教会などによる合同セミナーに参加した。感染者支援に熱心に取り組むアメリカ人神父の話は、母子保健研修ですぐ役に立ちそう。



↑ 9月下旬、バロンギス周辺沿岸部に駐留の国軍との話し合いがもたれた。紛争地域に近いパリンバン町の妊産婦搬送などの安全確保について話し合った。

9月30日、サランガニ州副知事室スタッフ（右端）の訪問を受けた。同州のブラコンやトゥヤン地区ヘルス組合活動を高く評価し、ブラコンよりさらに山深い地域の自宅出産リスク軽減に関して、助産所開設を準備していることにも大変関心を示してくれた。 →



10月28日には、行政区12（本ページ右下参照）と呼ばれるジェネラルサントス市など4州1市からなる地域を管轄する社会福祉省職員（右端）の訪問を受けた。PIHSのこれまでの活動への評価とともに、企画している母子保健の拠点、助産所開設企画への理解、期待が寄せられた。 →



助産所開設企画へのご協力ありがとうございました！ - 進捗状況の報告 -

助産所開設企画の進捗状況

前 87 号でご協力をお願いした建設基金は、合計 25 名から 292 千円(1/23 現在)のご寄付をいただきました。目標額には届きませんが、何よりも多数の会員のご理解をいただいたことに担当者一同大変心強い思いをいたしました。深く感謝申し上げます。

なお、前号で触れた日本の他団体からの協力については、現時点では PIHS からの報告はありませんが、代表ナプサさんのドイツの友人からは、助産所開設時の保健省や保険関係機関への手続き経費の支援約束があったそうです。

上段のように、現地では助産所開設に向けて、関係機関と調整を進めていて、4月からの工事開始に期待が集まっています。一方で、当団体の資金準備は十分でないため、健康保険加入促進他で過去に支援いただいた機関に助成申請を決めて、16日に諸書類の提出を済ませました。

助成が決定すれば、4月の施設建設から、患者の保険収入による自主運営が可能になると期待している12月までの9か月間、約200万円（うち申請助成金約100万円）の事業となります。主に建設資金に充当する自己資金準備のため、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。（事務局）

助産所事業の担い手

看護師・助産師等医療専門家3名と、地区ごとに育成したヘルスボランティア（CHW）たち。両者の連携で、辺境の妊産婦も事前研修や安全な出産、育児が保証されます。



左から：看護師ナプサさん
主任助産師ハリマさん
副助産師ジョハリアさん



助産所開設予定地ファティマ（旧名称ウハウ）は、ジェネラルサントス市（地図赤部分）の南西部に位置する人口約4万人のバランガイです。

本事業は、頭文字をとって SOCCSKSARGEN（ソクサジャン）と称される South Cotabato, Cotabato, Sultan Kudarat, Sarangani, General Santos 4州1市からなる「行政区 12」のムスリムを中心に、広くニーズのある女性を対象とする予定です。

（註：フィリピンは全 18 の行政区に分けられています）